

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／その他資産(商品)
信託期間	無期限
運用方針	信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主運用対象	(Aコース) 主としてコモディティ(商品)を主要投資対象とし、原則として保有外貨建資産について対円での為替ヘッジを行うルクセンブルグ籍外国投資法人である「DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジー (円ヘッジシェアクラス)」に投資を行います。 (Bコース) 主としてコモディティ(商品)を主要投資対象とし、原則として保有外貨建資産について対円での為替ヘッジを行わないルクセンブルグ籍外国投資法人である「DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジー (円ヘッジなしシェアクラス)」に投資を行います。 Aコース、Bコースとも上記投資法人の他に、円建国内投資信託である「ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド」にも投資を行います。
組入制限	①株式への直接投資は行いません。 ②投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ③外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時(原則として毎年3月5日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費等控除後の繰越分を含めた配当等収益及び売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準及び市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

DWS コモディティ戦略ファンド (年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)／Bコース(為替ヘッジなし)

第1期 運用報告書(全体版)

決算日 2019年3月5日

■投資者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型) Aコース(為替ヘッジあり)／Bコース(為替ヘッジなし)」は、2019年3月5日に第1期の決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー

〈お問い合わせ先〉

電話番号：0120-442-785

受付時間：営業日の午前9時～午後5時

<https://funds.dws.com/jp/>

*お取引内容等につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

【Aコース（為替ヘッジあり）】

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比	券 率	投 資 信 託 組 入 比	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 金 期 騰 落				
(設定日)	円		円		%	%	%	百万円
2018年10月15日	10,000		—		—	—	—	185
1期(2019年3月5日)	9,447		0	△5.5	—	—	98.4	708

(注1)当ファンドは、DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジー(円ヘッジシェアクラス)及びドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を設けておりません。

(注2)当ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率は実質比率を記載しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率	投 資 信 託 組 入 比	託 券 率
		騰 落	率				
(設定日)	円		%		%		%
2018年10月15日	10,000		—		—		—
10月末	9,630	△3.7			—		97.6
11月末	9,379	△6.2			—		98.1
12月末	9,173	△8.3			—		98.4
2019年1月末	9,437	△5.6			—		98.1
2月末	9,470	△5.3			—		98.6
(期 末)							
2019年3月5日	9,447	△5.5			—		98.4

(注1)騰落率は設定日比です。

(注2)当ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率は実質比率を記載しております。

【Bコース（為替ヘッジなし）】

○設定以来の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価 額			債 券 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 騰 落 中 率			
(設定日)	円	円	%	%	%	百万円	
2018年10月15日	10,000	—	—	—	—	550	
1期(2019年3月5日)	9,521	0	△4.8	—	98.5	936	

(注1)当ファンドは、DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジー(円ヘッジなしシェアクラス)及びドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を設けておりません。

(注2)当ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率は実質比率を記載しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

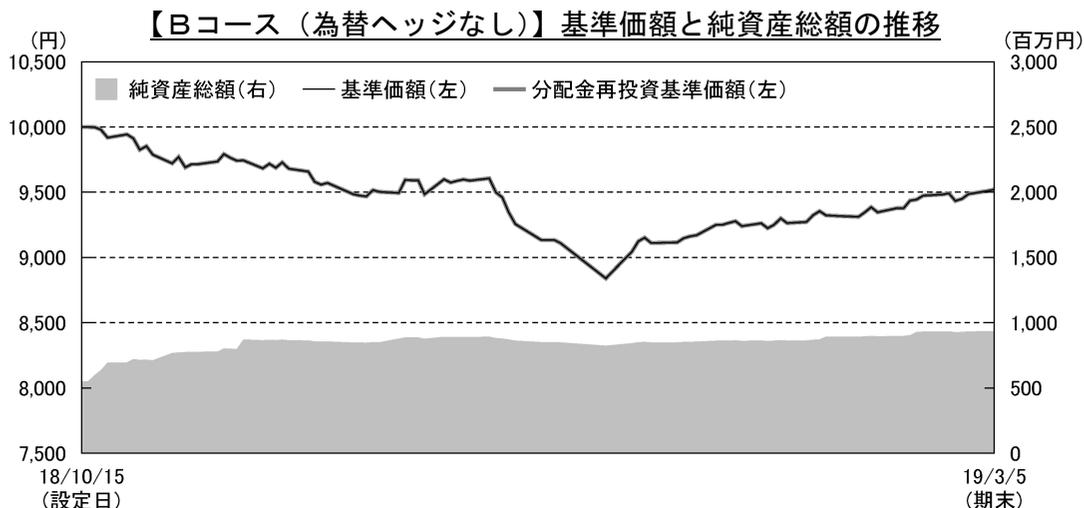
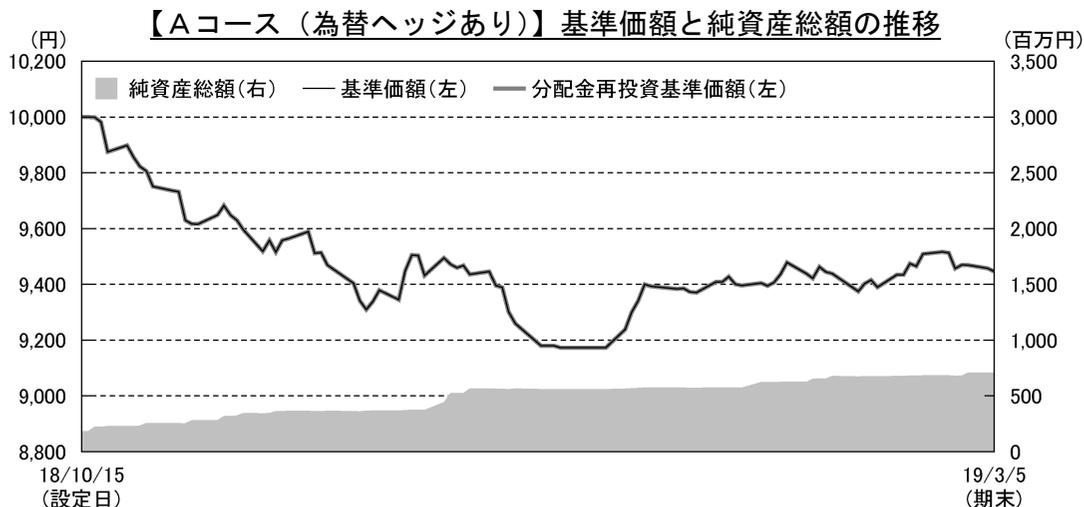
年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落	率		
(設定日)	円		%	%	%
2018年10月15日	10,000	—	—	—	—
10月末	9,691	△3.1		—	96.4
11月末	9,503	△5.0		—	98.0
12月末	9,110	△8.9		—	98.0
2019年1月末	9,300	△7.0		—	98.2
2月末	9,449	△5.5		—	98.5
(期 末)					
2019年3月5日	9,521	△4.8		—	98.5

(注1)騰落率は設定日比です。

(注2)当ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率は実質比率を記載しております。

○当期の運用概況と今後の運用方針

（2018年10月15日～2019年3月5日）



◆基準価額**【Aコース(為替ヘッジあり)】**

当ファンドの基準価額は期末において9,447円となり、設定当初から5.5%下落しました。当ファンドは主として、コモディティ(商品)を主要投資対象とし、原則として保有外貨建資産について対円での為替ヘッジを行う投資法人に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。当期はコモディティ市場全体が冴えない展開となり、中でも相対的に比率の高い原油などのエネルギー価格が期の前半に大きく下落したことが基準価額にマイナスに影響しました。

【Bコース(為替ヘッジなし)】

当ファンドの基準価額は期末において9,521円となり、設定当初から4.8%下落しました。当ファンドは主として、コモディティ(商品)を主要投資対象とし、原則として保有外貨建資産について対円での為替ヘッジを行わない投資法人に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。当期はコモディティ市場全体が冴えない展開となり、中でも相対的に比率の高い原油などのエネルギー価格が期の前半に大きく下落したことが基準価額にマイナスに影響しました。

◆投資環境

当期のコモディティ市場は下落しました。米中貿易戦争に対する懸念が高まり、グローバル経済への影響も意識されるなか、景気敏感なセクターを中心に年末にかけて大きく下落しました。年明け以降は、米中の貿易摩擦解消に向けて歩み寄りの姿勢が見られたことや株式市場の大幅な反発を受けて投資家センチメントが改善したことなどを背景に一転して上昇基調となりましたが、期初の水準を取り戻すには至りませんでした。セクター別ではまちまちの展開となりましたが、原油をはじめとするエネルギーの下落幅が大きく、全体の足を引っ張りました。

◆運用状況**【Aコース(為替ヘッジあり)】**

当ファンドは主として、コモディティ(商品)を主要投資対象とし、原則として保有外貨建資産について対円での為替ヘッジを行う投資法人に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

【Bコース(為替ヘッジなし)】

当ファンドは主として、コモディティ(商品)を主要投資対象とし、原則として保有外貨建資産について対円での為替ヘッジを行わない投資法人に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

（DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジー）

コモディティ市場のトレンドを捉え、その判断に応じて全体の投資割合を調整する「エンハンスト・ベータ・モメンタム戦略」、テクニカル指標やファンダメンタルズ分析等を通じ各コモディティのウェイトを調整する「レラティブ・バリュー・アルファ戦略」、「戦術的/ヘッジ・アルファ戦略」、「ロール・エンハンスメント戦略」を通じてポートフォリオのリバランスを適宜行いました。また、デリバティブ取引のために活用した証拠金以外の現金等を活用し、信用度が高くデュレーション*の短い米国債や国際機関債等に投資を行いました。

（ドイツ・円・マネー・マーケット・マザーファンド）

当初の運用方針通り、主に円建の公社債及び短期有価証券等への投資を行い、安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行いました。具体的には、短期金融資産を中心に運用を行いました。

◆収益分配金

【Aコース（為替ヘッジあり）】

基準価額水準等を勘案して、分配は行わないことといたしました。なお、留保された収益金につきましては、当ファンドの運用の基本方針に基づき運用させていただきます。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第1期
	2018年10月15日～ 2019年3月5日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	—

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金（税込み）と一致しない場合があります。

*デュレーション：金利変動に対する債券価格の変動性を示します。一般的にデュレーションが長いほど金利変動に対する価格の変動が大きくなります。

【Bコース（為替ヘッジなし）】

基準価額水準等を勘案して、分配は行わないことといたしました。なお、留保された収益金につきましては、当ファンドの運用の基本方針に基づき運用させていただきます。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第1期
	2018年10月15日～ 2019年3月5日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	—

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨五入して算出しているため合計が当期分配金（税込み）と一致しない場合があります。

◆今後の運用方針

【Aコース（為替ヘッジあり）】

当ファンドでは引き続き当初の運用方針通り、主としてコモディティ（商品）を主要投資対象とし、原則として保有外貨建資産について対円での為替ヘッジを行う投資法人に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

【Bコース（為替ヘッジなし）】

当ファンドでは引き続き当初の運用方針通り、主としてコモディティ（商品）を主要投資対象とし、原則として保有外貨建資産について対円での為替ヘッジを行わない投資法人に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

（DWS インベスト エンハスト・コモディティ・ストラテジー）

引き続きコモディティ市場のファンダメンタルズは中長期的にポジティブな状況が続くと考えています。堅調な世界経済を背景に、コモディティに対する需要は安定的かつ堅調に推移していくと考えられます。その一方で、供給面を見るとエネルギーや金属・鉱業関連企業は株主還元を優先しており、設備投資を積極的に行っていく状況にはありません。つまりは、需要の拡大に見合うような供給の増加が見込まれず、コモディティ市場の需給バランスはさらに引き締まる（需要増加/供給減少）と見込んでいます。短期筋のポジション調整が一服すれば市場は落ち着くと考えており、加えて米国の通商問題の解決への糸口が見つかればコモディティ市場への大きな追い風になると考えています。

（ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド）

当ファンドでは引き続き当初の運用方針通り、主に円建の公社債及び短期有価証券等に投資を行い、安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行います。信用力及び流動性の高いポートフォリオ運用を行うため、短期金融市場や国債市場の動向を踏まえ組み入れを行う方針です。

【Aコース（為替ヘッジあり）】

○1万口当たりの費用明細

（2018年10月15日～2019年3月5日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 45	% 0.475	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(16)	(0.168)	委託した資金の運用等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(28)	(0.294)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(1)	(0.013)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	4	0.038	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ・ 印 刷 費 用 等 ）	(4)	(0.038)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用や目論見書や運用報告書の作成に係る費用等
合 計	49	0.513	
期中の平均基準価額は、9,417円です。			

(注1) 期中において発生した費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注5) 監査費用・印刷費用等にはマイナス金利に係る費用等を含みます。

○売買及び取引の状況

（2018年10月15日～2019年3月5日）

投資信託証券

銘 柄	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
外 邦 債 国 建 DWS インベスト エンハスト・コモディティ・ストラテジー(円ヘッジシェアクラス)	口 73,828	千円 711,384	口 -	千円 -

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド		998	1,000	—	—

(注)単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2018年10月15日～2019年3月5日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、DEUTSCHE BANK AG、ドイツ証券です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況 (2018年10月15日～2019年3月5日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2018年10月15日～2019年3月5日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2019年3月5日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘	柄	当 期 末		
		口 数	評 価 額	比 率
		口	千円	%
DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジー(円ヘッジシェアクラス)		73,828	697,162	98.4
合 計		73,828	697,162	98.4

(注1)単位未満は切捨て。

(注2)比率欄は純資産総額に対する比率。

親投資信託残高

銘	柄	当 期 末	
		口 数	評 価 額
		千口	千円
ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド		998	999

(注)単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

（2019年3月5日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資証券	697,162	94.6
ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド	999	0.1
コール・ローン等、その他	38,725	5.3
投資信託財産総額	736,886	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2019年3月5日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	736,886,400
コール・ローン等	38,545,504
投資証券(評価額)	697,162,984
ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド(評価額)	999,600
その他未収収益	178,312
(B) 負債	28,511,473
未払金	26,000,000
未払信託報酬	2,321,211
未払利息	105
その他未払費用	190,157
(C) 純資産総額(A-B)	708,374,927
元本	749,879,409
次期繰越損益金	△ 41,504,482
(D) 受益権総口数	749,879,409口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,447円

<注記事項>

設定元本額	185,599,558円
期中追加設定元本額	564,279,851円
期中一部解約元本額	0円

○損益の状況（2018年10月15日～2019年3月5日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	550,992
その他収益金	562,391
支払利息	△ 11,399
(B) 有価証券売買損益	△14,221,495
売買損	△14,221,495
(C) 信託報酬等	△ 2,511,368
(D) 当期損益金(A+B+C)	△16,181,871
(E) 追加信託差損益金	△25,322,611
(配当等相当額)	(△ 802)
(売買損益相当額)	(△25,321,809)
(F) 計(D+E)	△41,504,482
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△41,504,482
追加信託差損益金	△25,322,611
(配当等相当額)	(△ 848)
(売買損益相当額)	(△25,321,763)
繰越損益金	△16,181,871

(注1) (A) 配当等収益－支払利息にはマイナス金利に係る費用等を含みます。

(注2) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注3) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注4) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○分配金の計算過程

(2018年10月15日～2019年3月5日)

項 目	当 期
a. 配当等収益(費用控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0
c. 信託約款に定める収益調整金	0
d. 信託約款に定める分配準備積立金	0
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	0
f. 分配対象収益(1万口当たり)	0
g. 分配金	0
h. 分配金(1万口当たり)	0

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

(注1) 分配金をお支払いする場合

分配金のお支払いは、原則として決算日から起算して5営業日までに開始いたします。

(注2) 分配金を再投資する場合

お手持り分配金は、税引後みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

* 個人受益者が受取る普通分配金については、原則として20%(所得税15%、地方税5%)の税率で源泉徴収されます。(法人受益者の場合は税制が異なります。)

2014年1月1日から2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%(所得税及び復興特別所得税15.315%、並びに地方税5%)の税率が適用されます。

* 少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方となります。また、20歳未満の方を対象とした「ジュニアNISA」をご利用の場合、毎年、年間80万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります(ただし、対象者が18歳になるまでは払出し制限があります。)。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

* 元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

* 税法が改正された場合等には、上記の内容が変更されることがあります。

* 課税上の取扱いの詳細については、税務専門家または税務署にご確認下さい。

〈お知らせ〉

- ・ 該当事項はございません。

【Bコース（為替ヘッジなし）】

○1万口当たりの費用明細

（2018年10月15日～2019年3月5日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 45	% 0.475	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投 信 会 社）	(16)	(0.168)	委託した資金の運用等の対価
（販 売 会 社）	(28)	(0.294)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.013)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	4	0.038	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用・印刷費用等）	(4)	(0.038)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用や目論見書や運用報告書の作成に係る費用等
合 計	49	0.513	
期中の平均基準価額は、9,410円です。			

(注1) 期中において発生した費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注5) 監査費用・印刷費用等にはマイナス金利に係る費用等を含みます。

○売買及び取引の状況

（2018年10月15日～2019年3月5日）

投資信託証券

銘 柄	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
外 邦 債 国 建 DWS インベスト エンハスト・コモディティ・ストラテジー(円ヘッジなしシェアクラス)	口 96,811	千円 956,722	口 -	千円 -

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド	千口 2,994	千円 3,000	千口 -	千円 -

(注)単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2018年10月15日～2019年3月5日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、DEUTSCHE BANK AG、ドイツ証券です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況 (2018年10月15日～2019年3月5日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2018年10月15日～2019年3月5日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2019年3月5日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘 柄	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジー(円ヘッジなしシェアクラス)	口 96,811	千円 922,324	% 98.5
合 計	96,811	922,324	98.5

(注1)単位未満は切捨て。

(注2)比率欄は純資産総額に対する比率。

親投資信託残高

銘 柄	当 期 末	
	口 数	評 価 額
ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド	千口 2,994	千円 2,998

(注)単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

（2019年3月5日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資証券	922,324	98.0
ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド	2,998	0.3
コール・ローン等、その他	15,533	1.7
投資信託財産総額	940,855	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2019年3月5日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	940,855,939
コール・ローン等	15,292,454
投資証券(評価額)	922,324,316
ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド(評価額)	2,998,802
その他未収収益	240,367
(B) 負債	4,315,200
未払信託報酬	3,988,392
未払利息	41
その他未払費用	326,767
(C) 純資産総額(A-B)	936,540,739
元本	983,614,700
次期繰越損益金	△ 47,073,961
(D) 受益権総口数	983,614,700口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,521円

<注記事項>

設定元本額	550,163,301円
期中追加設定元本額	433,451,399円
期中一部解約元本額	0円

○損益の状況（2018年10月15日～2019年3月5日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	945,768
その他収益金	962,811
支払利息	△ 17,043
(B) 有価証券売買損益	△34,399,326
売買損	△34,399,326
(C) 信託報酬等	△ 4,315,159
(D) 当期損益金(A+B+C)	△37,768,717
(E) 追加信託差損益金	△ 9,305,244
(配当等相当額)	(△ 1,183)
(売買損益相当額)	(△ 9,304,061)
(F) 計(D+E)	△47,073,961
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△47,073,961
追加信託差損益金	△ 9,305,244
(配当等相当額)	(△ 1,250)
(売買損益相当額)	(△ 9,303,994)
繰越損益金	△37,768,717

(注1) (A) 配当等収益—支払利息にはマイナス金利に係る費用等を含みます。

(注2) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注3) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注4) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○分配金の計算過程

(2018年10月15日～2019年3月5日)

項 目	当 期
a. 配当等収益(費用控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0
c. 信託約款に定める収益調整金	0
d. 信託約款に定める分配準備積立金	0
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	0
f. 分配対象収益(1万口当たり)	0
g. 分配金	0
h. 分配金(1万口当たり)	0

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

(注1)分配金をお支払いする場合

分配金のお支払いは、原則として決算日から起算して5営業日までに開始いたします。

(注2)分配金を再投資する場合

お手持り分配金は、税引後みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

*個人受益者が受取る普通分配金については、原則として20%(所得税15%、地方税5%)の税率で源泉徴収されます。(法人受益者の場合は税制が異なります。)

2014年1月1日から2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%(所得税及び復興特別所得税15.315%、並びに地方税5%)の税率が適用されます。

*少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方となります。また、20歳未満の方を対象とした「ジュニアNISA」をご利用の場合、毎年、年間80万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります(ただし、対象者が18歳になるまでは払出し制限があります。)。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

*元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

*税法が改正された場合等には、上記の内容が変更されることがあります。

*課税上の取扱いの詳細については、税務専門家または税務署にご確認下さい。

<お知らせ>

- ・該当事項はございません。

DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジーの運用状況

DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジー（円ヘッジシェアクラス／円ヘッジなしシェアクラス）は、DWS コモディティ戦略ファンド（年1回決算型）Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）が組入れている外国投資信託です。当ファンドの第1計算期末は2018年12月31日です。2019年3月5日現在、入手できる決算情報が存在しないため、ファンドの概要のみをお知らせいたします。

■ファンドの概要

形態	ルクセンブルグ籍外国投資法人
表示通貨	円
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・主としてコモディティ（商品）市場に実質的に投資を行い、Bloomberg Commodity Index Total Returnを上回る中長期的な成長を目指して運用を行います。 ・実質的にコモディティ（商品）市場への投資効果を達成するために、デリバティブ取引等を活用し、農産物類、エネルギー類、産業金属類、畜産物類、貴金属類をはじめとする幅広いコモディティのセクターに投資を行います。 ・運用資産総額の100%を上限とし、債券、短期金融資産及び現預金等に投資する場合があります。 ・外貨建資産について、原則として円ヘッジシェアクラスは対円での為替ヘッジを行います。円ヘッジなしシェアクラスは対円での為替ヘッジを行いません。
投資運用会社	DWS インベストメント・マネジメント・アメリカズ・インク

ドイチェ・円・マネー・マーケット・マザーファンド

運用報告書

《第9期》

決算日：2018年12月17日

(計算期間：2017年12月16日～2018年12月17日)

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行います。
主要運用対象	円建の公社債及び短期有価証券等を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	債 組 入 比 率		純 資 産 額
		騰 落 率	率	
	円		%	百万円
5期(2014年12月15日)	10,041	0.0	55.7	233
6期(2015年12月15日)	10,043	0.0	82.3	158
7期(2016年12月15日)	10,038	△0.0	—	160
8期(2017年12月15日)	10,028	△0.1	—	140
9期(2018年12月17日)	10,018	△0.1	—	100

(注)当ファンドでは、主に円建の公社債及び短期有価証券等に投資を行い、安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行います。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を設けておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

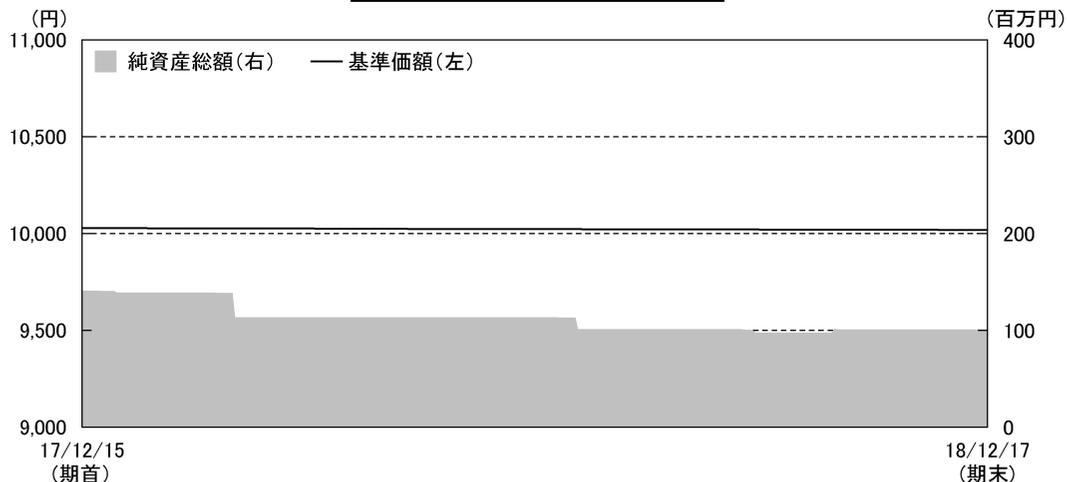
年 月 日	基 準 価 額	債 組 入 比 率	
		騰 落 率	率
(期 首)	円		%
2017年12月15日	10,028	—	—
12月末	10,028	0.0	—
2018年1月末	10,027	△0.0	—
2月末	10,026	△0.0	—
3月末	10,025	△0.0	—
4月末	10,024	△0.0	—
5月末	10,024	△0.0	—
6月末	10,023	△0.0	—
7月末	10,022	△0.1	—
8月末	10,021	△0.1	—
9月末	10,020	△0.1	—
10月末	10,019	△0.1	—
11月末	10,018	△0.1	—
(期 末)			
2018年12月17日	10,018	△0.1	—

(注)騰落率は期首比です。

○当期の運用概況と今後の運用方針

(2017年12月16日～2018年12月17日)

基準価額と純資産総額の推移



◆基準価額

当ファンドの基準価額は期末において 10,018 円となり、前期末とほぼ同じ水準となりました。当ファンドでは当初の運用方針通り、主に円建の公社債及び短期有価証券等に投資を行い、安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行いました。日本銀行によるマイナス金利付き量的・質的金融緩和実施の影響を受けて、基準価額は安定した動きとなりました。

◆運用状況

当ファンドでは当初の運用方針通り、主に円建の公社債及び短期有価証券等に投資を行い、安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行いました。具体的には、短期金融資産を中心に運用を行いました。

◆今後の運用方針

当ファンドでは、引き続き当初の運用方針通り、主に円建の公社債及び短期有価証券等への投資を通じて、安定した収益と流動性の確保を目的とした運用を行います。信用力及び流動性の高いポートフォリオ運用を行うため、短期金融市場や国債市場の動向を踏まえ組み入れを行う方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2017年12月16日～2018年12月17日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2017年12月16日～2018年12月17日)

該当事項はございません。

○利害関係人との取引状況等

(2017年12月16日～2018年12月17日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、DEUTSCHE BANK AG、ドイツ証券です。

○組入資産の明細

(2018年12月17日現在)

2018年12月17日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2018年12月17日現在)

項 目	当 期		末
	評 価 額	比	率
	千円		%
コール・ローン等、その他	100,782		100.0
投資信託財産総額	100,782		100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年12月17日現在)

○損益の状況 (2017年12月16日～2018年12月17日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	100,782,200
コール・ローン等	100,782,200
(B) 負債	276
未払利息	276
(C) 純資産総額(A-B)	100,781,924
元本	100,601,147
次期繰越損益金	180,777
(D) 受益権総口数	100,601,147口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,018円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△112,614
支払利息	△112,614
(B) 当期損益金(A)	△112,614
(C) 前期繰越損益金	396,595
(D) 追加信託差損益金	7,984
(E) 解約差損益金	△111,188
(F) 計(B+C+D+E)	180,777
次期繰越損益金(F)	180,777

<注記事項>

①期首元本額	140,493,348円
期中追加設定元本額	3,992,016円
期中一部解約元本額	43,884,217円
②当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額	
ドイチェ・グローバルREIT投信(円コース)毎月分配型	3,403,949円
ドイチェ・グローバルREIT投信(円コース)年2回決算型	1,692,706円
ドイチェ・グローバルREIT投信(米ドルコース)毎月分配型	28,027,536円
ドイチェ・グローバルREIT投信(米ドルコース)年2回決算型	2,658,407円
ドイチェ・グローバルREIT投信(豪ドルコース)毎月分配型	5,588,014円
ドイチェ・グローバルREIT投信(豪ドルコース)年2回決算型	631,696円
ドイチェ・グローバルREIT投信(ブラジルリアルコース)毎月分配型	46,806,804円
ドイチェ・グローバルREIT投信(ブラジルリアルコース)年2回決算型	1,711,633円
ドイチェ・グローバルREIT投信(南アフリカランドコース)毎月分配型	331,336円
ドイチェ・グローバルREIT投信(南アフリカランドコース)年2回決算型	28,953円
ドイチェ・グローバルREIT投信(中国元コース)毎月分配型	309,664円
ドイチェ・グローバルREIT投信(中国元コース)年2回決算型	90,148円
ドイチェ・グローバルREIT投信(ロシアルーブルコース)毎月分配型	1,975,905円
ドイチェ・グローバルREIT投信(ロシアルーブルコース)年2回決算型	696,160円
ドイチェ・グローバルREIT投信(マネーブルファンド)年2回決算型	2,656,220円
DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)Aコース(為替ヘッジあり)	998,004円
DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)Bコース(為替ヘッジなし)	2,994,012円

(注1) (A) 配当等収益－支払利息にはマイナス金利に係る費用等を含みます。

(注2) (D) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) (E) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<お知らせ>

・該当事項はございません。